

Rくんと三年間

ー重度重複障がいのある児童生徒の 捉えの変化ー

長野県飯田養護学校 小室 惟

重度重複障がいグループで過ごした 三年間の変化

気持ち

・考え

印象

接し方

具体的な見方

同僚との情報
共有

今、大切と思
うこと

一年目

二年目

三年目

グループの子どもたち・Rくんとの出会い

- 初めてかかわるグループの子どもたち
- 様々な実態のある笑顔を見せてくれたり、指を握ってくれたり、みんなかわいらしい
- 担任したRくん
くるくる回ったり、霧吹きを吹きかけたりして
たくさん遊ぶ

写真
会場公開

一年目

グループの子どもたちへの印象

- 受け身の人生なのでは？
- 与えられたものの中での生活では？
- 色々な経験の場を設定しないと、毎日同じことの繰り返しでは？

楽しいことはしたいけど、
楽しいだけじゃ教育じゃないよな…

一年目

写真
会場公開

疑問は浮かぶが…

- 話すことは伝わっている？
- 用意した教材は適している？
- どんな授業や活動を設定すればよい？

疑問は浮かぶが…

何から手をつけていいかわからない

確かめる方法を持っていない

一年目

疑問は浮かぶが…

「教育」が何かは分からないが、丁寧に支援することはできる

- ・ 「だっこするよ」「バギーが動くよ」の予告を忘れずに
- ・ 人権の視点を忘れずにかかわろう
- ・ なんでも一緒にやってみよう

…そうして最初の一年を過ごす

一年目

写真
会場公開

実践計画書で気づく、捉えの難しさ

- 把握していたつもり「実態」は、とても曖昧だった
例) 見え方について
視力は? どんな見え方? 色の識別は?
- 今までは、気持ちだけで接していた
- 実態に合った方法が見つければ「伝わる」方法でRくんとかかわれるようにかもしれない



二年目

Rくんに伝わる方法を目指した実践計画

- ① 見え方・聞こえ方・感じ方の実態把握
- ② 個別学習の内容見直し



二年目

実態把握の方法を学ぶ

- 刺激に対する反応は、身体の動きの増減に表れる
- 身体の動きの増減を可視化するために、ICTを活用する
- 刺激に対する反応の意味を推測する
- 身体の動きの減少は「おや、なんだろう？」という反応だったことに驚く。



二年目

実態把握の一場面

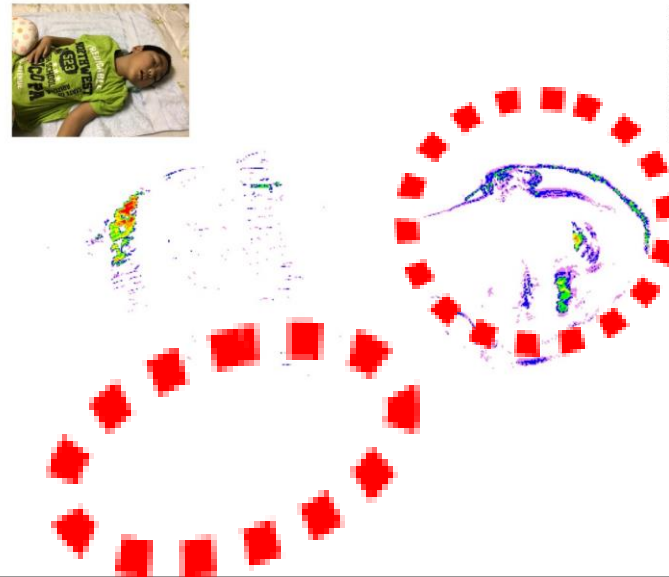


聴覚刺激（ベルを鳴らす、本児左側から）

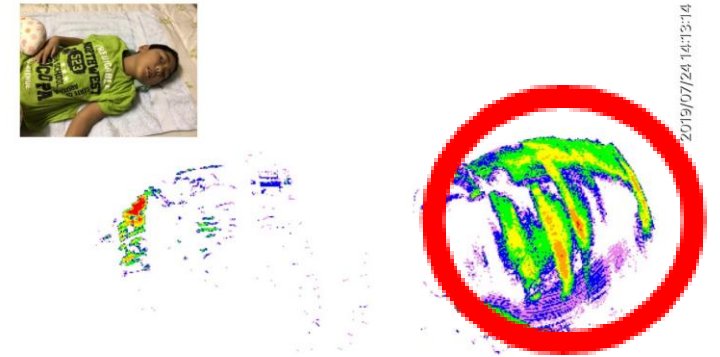
①無音（20秒）



②ベルを鳴らす（20秒）



③刺激の提示（ベル）を止める（20秒）



…動きの減少

…動きの増加



二年目

明らかにになっていくRくんのこと

感覚	実態把握後
視覚	顔から20cm程度だと明暗を感じている
聴覚	高低音とも聞こえてるが、高音の方が聞きやすそう
触覚	苦手な感触もありそう
表出	【刺激の提示】脱力、身体の動きの減少、5～15秒程度で眼球が刺激の方向を向き、停留 【提示を止める】首の旋回、舌および眼球の動きの増加



二年目

身についていく“観察の視点”

- 子どもたちに①伝わり ②受容し ③表出する までには**時間**を取る必要があること
- 提示する物がはっきりするように、**周囲の環境を整理**すること
- 提示する**刺激を少なく**すること
- 伝わっているかどうかは、**身体の動きの量（増減）**や**表情の変化**が手がかりになること
- 他のお子さんもその視点で観察すると見えてくるものがあるのでは？



二年目

日常的に気をつけるようになってきたこと

子どもたちの動きや表情を見ながら、

- 楽しいことは何回でもやろう！楽しい経験をたくさん積もう
- 新しい活動は何回もやってみよう！それから好悪を推察しよう
- みんな何に興味を示しているのだろうか？
- 大人はしゃべりすぎだな、この教室は刺激が多すぎるな。
- 提示したら、表出を待ってみよう。何か教えてくれるはず。



二年目

Rくんの個別学習の見直し

これまでの個別学習

立位・歩行器などの身体の学習

壁面装飾の工作など

見直し後

立位・歩行器などの身体の学習

壁面装飾の工作など

見る・聞く・感じることを
引き出す学習



二年目

見る・聞く・感じることを引き出す学習

- クッション椅子に座るまたは布団に寝て、身体に負担のない姿勢を取る
 - 耳元で紙を破く、そっと触れてみる、「Rくん」と呼名するなどの刺激を提示する
 - 気づく姿が見られたら「よく聞いていたね」など称賛するとともに、「この距離で・この大きさに・この触れ方で」など伝わる距離や刺激を整理していく
- ※気づく姿＝身体の動きの増減で判断



二年目

写真
会場公開

学習を日常生活のかかわりに生かす

- 日常生活のざわざわした環境でも気づける刺激を、日常生活に行かせないか？
- 日常生活で気づける刺激は…触覚（触れられること）かな？
- 「だっこするよ」の場面で…
 - ①「抱っこするよ」の声掛け
 - ②Rくんの首と膝下に腕を通す
 - ③少し待つ
 - ④表情の変化があったら抱き上げる



二年目

写真
会場公開

楽しくなっていく、グループの子どもたちとのかかわり

かかわりがより一層楽しくなっていたのは、子どもたちのどこを**観たら**いいのか分かってきたから。

お子さんを観る場面	気づき・推測
表情の変化	楽しいかな？ 嫌かな？ 怖いかな？
NEW! 身体の動きの減少	急に静かになったから「なんだろう？」と思ったかな？
NEW! 身体の動きの増加	先生の姿が見えて嬉しくなったかのかな？ 遊んでもらえる！と思ったのかも？



三年目

新たに生まれる疑問

- 「おや？」と思っているときに、どんな言葉や行動で返事をしたらいいのだろうか？
- 「遊びや活動で笑顔を見せる＝その活動が楽しい」という解釈でいいのだろうか？
- 「〇〇さん」って名前を呼ばれて振り向いたら、自分が呼ばれていると判断していいのだろうか？



三年目

疑問、検証、新たな疑問…の繰り返し

担任の先生（女性）に「Sさん」と名前を呼ばれると笑顔になる姿を見て…

自分の名前を呼ばれたから嬉しくて笑顔になった？

担任の先生の声がしたことに気づいただけ？

と思った。

担任の先生に聞くと「確かめてみましょう」ということに。



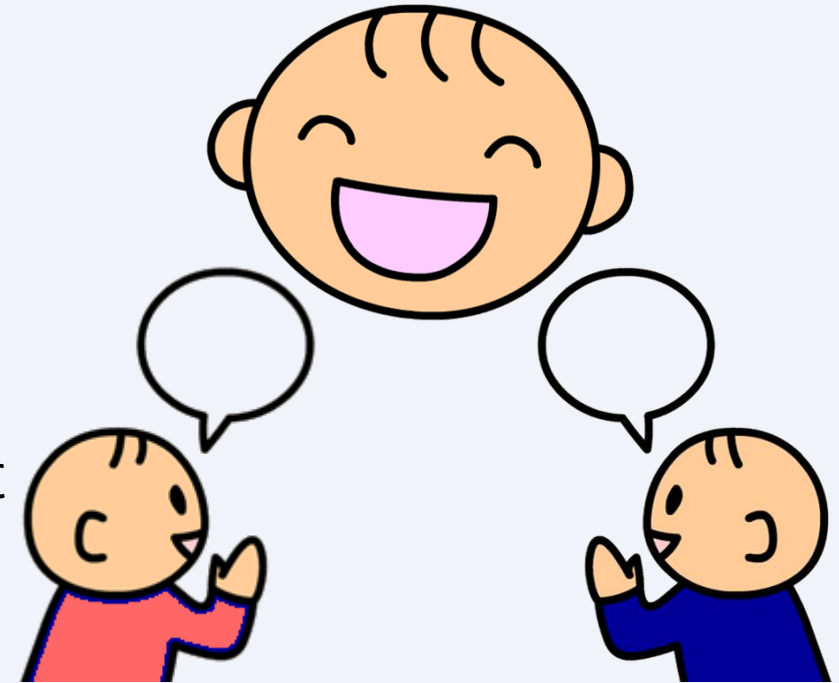
三年目

疑問、検証、新たな疑問…の繰り返し

仮説 1 Sさんは自分の名前を呼ばれていることを理解している

検証 1 女性の先生が「Sさん」と呼ぶ
男性の先生が「Sさん」と呼ぶ

結果 1 女性の声も男性の声も笑顔を見せた



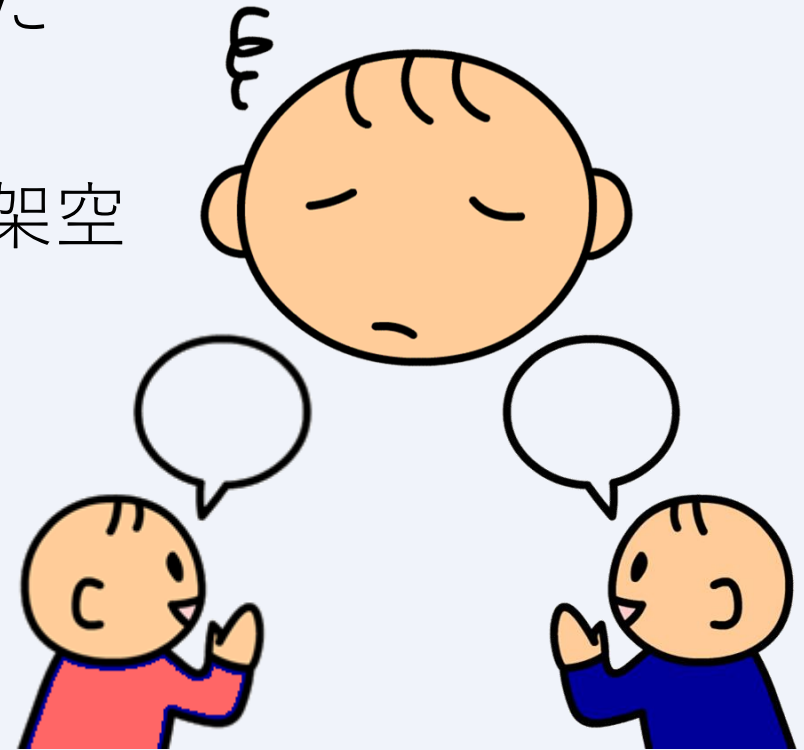
三年目

疑問、検証、新たな疑問…の繰り返し

仮説 2 担任の先生の声を聞くと笑顔になった

検証 2 担任の先生が他のお子さんの名前や架空の人物の名前を呼ぶ

結果 2 笑顔を見せなかった



三年目

疑問、検証、新たな疑問…の繰り返し

結果 1 女性の声も男性の声も笑顔を見せた
…声の高低音は関係なく、名前を呼ばれていることに気づいているのかも？

結果 2 笑顔を見せなかった
…担任の先生の声聞き分けているのではなく、その内容（自分が呼ばれているかどうか）も聞いている？



三年目

疑問、検証、新たな疑問…の繰り返し

- 「Sさんは自分が呼ばれていることに気づいている可能性が高い」ということを複数の目で確認できた
- 「Sさん」と名前を呼ぶことが注意喚起になるかもしれない
- 「注目してほしいときには、最初に名前を呼んでみるといいかも」という意識も生まれた



三年目

疑問、検証、新たな疑問…の繰り返し

「丁寧に接する」に加えて

「伝わる方法で接する」

「疑問を明らかにして接する」

ような職員集団への変化



三年目

予想を超えた、職員のかかわりの変化

- 子どもの姿を話し、共有し、授業や活動に生かす
- 情報共有ができるようになり、支援する職員が変わってもお子さんに「やらせる」活動が少なくなった
- 「描画は手で筆記用具を持って」などの固定概念が少なくなり、できる力で取り組もうと言う考え方になった

写真
会場公開



三年目

三年間で得たもの①

○子どもを観ること

- ・ 自分に流れる時間と子どもたちに流れる時間は同じではない
- ・ だから、子どもたちに流れる時間で活動を進めていく
- ・ 笑顔に加えて、身体の動きの増減や「おや？」という表情を観察しながら活動していく

一年目



二年目



三年目

三年間で得たもの②

○大切にしたい活動内容を見極める

- ・たくさんの活動をこなすのではなく、精選する
- ・伝わるものを、伝わる距離で、伝わる方法で提示する
- ・子どもたちの「できる力」を最大限に生かした活動の設定

写真
会場公開

一年目



二年目



三年目

三年前の自分へ…

- 一緒に楽しく過ごすことは大事だよ
- “観察の視点”を持つことで、お子さんのことが明らかになっていくよ
- 「この方法なら伝わるぞ」と自信を持ってお子さんとかかわることができるよ
- 今よりもっともっとお子さんと一緒に過ごすのが楽しくなるよ

写真
会場公開

動画

ご清聴ありがとうございました